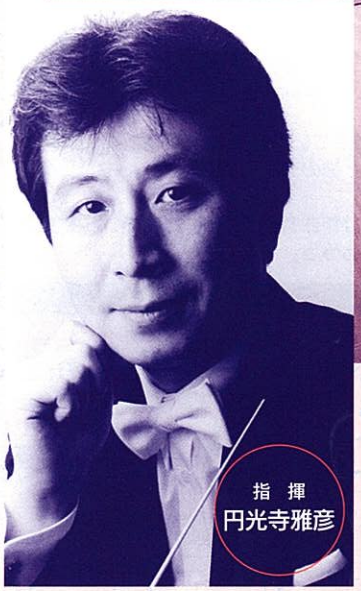
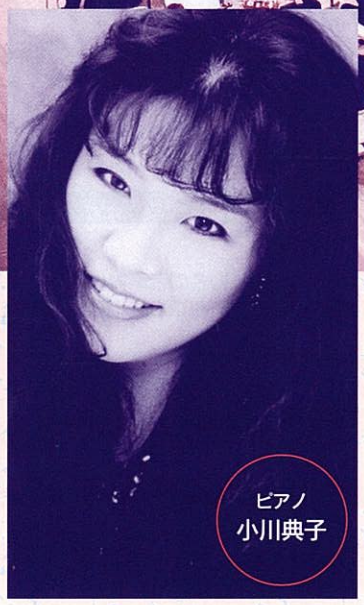
たんば田園交響ホール 開館15周年記念

大阪フィルハーモニー交響楽団

朝比奈隆 メモリアルコンサート





［プログラム］

L.V.ベートーヴェン
歌劇〈フィデリオ〉序曲

L.V.ベートーヴェン
ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
ピアノ独奏／小 川 典 子

L.V.ベートーヴェン
交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」

4月18日 金 午後6時30分開演
たんば田園交響ホール

主催 篠山市・社団法人大阪フィルハーモニー協会　入場料（全席指定）一般5,000円 大学生以下1,000円
※小学生未満の入場はできません

お問い合わせ／たんば田園交響ホール TEL(079)552－3600 E-mail denen@city.sasayama.hyogo.jp URL http://www.city.sasayama.hyogo.jp/denen/index.html

プレイガイド

篠山市内（079）			
●小山書店	☎552－0019	●黒豆の館	☎590－8077
●森本書房	☎552－0125	●JA丹波ささやま旅行センター	☎594－3090
●木下楽器	☎552－0321	●うかいや書店(篠山店)	☎590－1025
●サワヤマ楽器	☎552－2019	●NEWS篠山総合サービスセンター	☎594－3700
●紙ふうせん	☎554－3340	●今田公民館	☎597－2255

氷上郡内（0795）	
●柏原観光案内所	☎73－0303
●丹波の森公苑	☎72－5170
●春日町文化ホール	☎74－1050

三田市内（079）	
●三田サティ3F サービスコーナー	☎564－2121
●阪急オアシス えるむプラザ店	☎565－1148

作品解説

■歌劇〈フィデリオ〉序曲

ベートーヴェンの劇音楽への創作はボン時代末の〈騎士舞踊への音楽〉に始まり、のちウィーンで〈プロメテウスの創造物〉、歌劇〈フィデリオ〉〈エグモント〉〈アテネの廃墟〉〈シュテファン王〉〈献堂式〉等が作曲される。

ベートーヴェン唯一の歌劇〈フィデリオ〉のもととなったのはJ.N.ブィー原作の「レオノール、別名、夫婦愛」でこれをJ.ゾンライトナーがドイツ語の台本に改作、一八〇四～〇五年にかけ〈レオノーレ〉序曲第二と三幕十八曲が書かれ歌劇〈レオノーレ〉の名で初演した。しかしこの第一作は冗長との理由で、一八〇六年に〈レオノーレ〉序曲第三を新たに作曲、二幕十七曲に改定したがこれも世評も思わしくなく、一八一四年にF.トライチュケが台本に手を加え〈フィデリオ〉と改題、序曲も〈フィデリオ〉序曲を書き全体を二幕十六曲とし、この歌劇の最終稿が完成した。物語は、スペイン貴族フロレスタンは国立監獄の獄長ピッツァロの私怨によって地下牢に投獄されている。夫の大事を知った妻レオノーレは男装しフィデリオの名で牢番の下僕に雇われ夫を救出する、というのが大筋である。

■ピアノ協奏曲　第五番　変ホ長調　作品七三「皇帝」

ベートーヴェンのピアノ協奏曲の最大のものである。だれがいいはじめたのかは知らないが、この協奏曲はよく「皇帝」と呼ばれる。まさにそのとおりであって、堂々としたところは王者のそれを想わせる。したがってこの別名については、ベートーヴェンはまったくあずかり知らないところでもあるし、また「皇帝」とあとで呼ぶようになったとはいえ、それはなにもある特定の皇帝と関係づけてある、というものでもない。

さきの「第四番」で、独奏ピアノで開始する、という新しいゆきかたを試みたベートーヴェンは、ここでも第一楽章の冒頭を独奏ピアノのカデンツァで開始する、という新しいゆきかたをしている。そのために最初からきわめて豪華な印象をあたえる。

またこの楽章の終りのカデンツァのでるべき箇所では、ベートーヴェンはこれに類するものを自分で書いておいて、即興的にはいる従来のカデンツァのおこなわれることを禁止して「カデンツァは無用であって、そのままつづける」と注意している。

第二楽章を休みなしに第三楽章につづけているのは、前の「第四番」とおなじであるが、こんどはその対照の妙がまことによく発揮されている。独奏ピアノが身をくねらせるような新しい主題をみちびいてくる。経過の部分があって、主要主題であるロンドの主題が、独奏ピアノに現れる。それから長大なしかも豪快な展開の部分があって、交響曲的な、協奏曲的な技巧が遺憾なく発揮されている。

■交響曲　第六番　ヘ長調　作品六八「田園」

第五交響曲「運命」と双生児といわれるこの曲は、一八〇八年の夏、彼がそこの自然の風景をこよなく愛していた、ウィーン郊外のハイリゲンシュタットで作曲された。「第五番」は人間を描いたのに対して、この「第六番」は自然を描いている、とか、前者の男性的であるのに反して、後者は女性的である、とか、または前者がきわめて集中的で凝縮されたものであるのに反して、後者はあふれて流れるものである、というふうに、古来この二つは相反する、あるいは対照的な性格をもったものとして説明されてきた。そしてまたこの二冊が、作曲の時を同じくしているために、それはあたかも電気がその反対の性質のものを呼ぶように、期せずしてこのようになったのだ、というふうにもいわれてきた。

種類は違っていても時を同じくして成立した作曲なるものは、ある種の相においてはたいへん関係を持っているということと、一つの作品の発生と生成は、ほかの作品のそれにたいへん左右されるものである —— というのは、ここでもいわれうるのであって、まずその冒頭に気をつけてみるがよい。ffとpの違いはあるとはいえ、八分休止があって「タタタ」とはいるところはまったく同じ、フェルマータできまりをつけてから、本気で走りだすところもそうである。いやそればかりでない。そう思って聴くと、展開部で大きくひろがるところなど、ほんとうによく似ているなあ、とびっくりするところがよくある。やっぱり双生児なのである。

この曲は作曲者自身が「田園交響曲」と呼んだもので、彼自身の名づけた、さらに各楽章にもついている標題を持っている数少ないものの一つであり、その点からも有名である。しかしなににもましてそのあかるさと、あふれるばかりの流動性のゆえに、この曲もまた彼の交響曲のうちの、いな世界の交響曲のうちでも、さきの「第五番」とならんでもっとも人気のあるものである。

さて各楽章にも標題がついているとはいえ、この曲自体はけっして風景をうつしたたんなる音画ではない。これは作曲者自身が初演のとき、田園生活の思い出とプログラムにのせたのに付け加えて、「絵画よりも、はるかに感じの表出を」と書いたように聴くべきであろう。

プロフィール

大阪フィルハーモニー交響楽団

大阪フィルハーモニー交響楽団は1947年（昭和22年）1月、朝比奈隆を中心とする約90名の音楽家によって「関西交響楽団」という名称で生まれた。1950年（昭和25年）には関西政財界の絶大な支援のもと社団法人化、1960年（昭和35年）にはより充実した交響楽団を目指し改組、「大阪フィルハーモニー交響楽団」という現在の名称になった。

創立以来2001年12月に亡くなるまでの55年間朝比奈隆が指揮者を務め、大阪フィルは個性と魅力溢れるオーケストラとして親しまれてきた。指揮者には朝比奈以外ではこれまでに、遠山信二、外山雄三、秋山和慶、手塚幸紀、大友直人等、名指揮者達と専属契約を結び、現在ミュージック・アドヴァイザーを外山雄三と若杉弘が務める。そして、2003年4月より大植英次が音楽監督に就任することが決まった。

大阪フィルの活動範囲は、関西はもとより日本全国に及ぶ。「定期演奏会」は年10回開催、毎年充実した指揮者陣を誇る。「定期演奏会」以外では、ザ・シンフォニーホールとの共催による宮川彬良が音楽監督を務める「ポップス・コンサート」が人気のシリーズ公演である。また、「東京定期演奏会」のほか、神戸、尼崎、京都、名古屋、岐阜、福岡等での公演により、大阪以外の各地域の文化振興にも貢献している。数回におよぶヨーロッパ、北米、韓国、台湾での演奏旅行では各地で絶賛を博した。

レコーディング活動も活発に行っており、日本で一番多くのレコード、ＣＤを発表しているオーケストラである。

円光寺雅彦（えんこうじ　まさひこ）指揮者

1954年東京生まれ。桐朋学園大学指揮科で指揮を斎藤秀雄、ウィーン国立大学にてオトマール・スウィトナーに師事。

1981年９月帰国後、東京フィル副指揮者に就任。1986年より専属指揮者となり、1991年３月までその任を務める。

1989年より1999年３月まで仙台フィル常任指揮者として活躍。オーケストラの飛躍的な発展に貢献し、その実績は高く評価されている。多数のＣＤライヴ録音もある。

1998年５月より2001年４月まで札幌響正指揮者を務める。2000年３月には東京公演を指揮し好評を博し、札幌響と円光寺の取り組みは高く評価された。

海外でも、プラハ響、ＢＢＣウェールズ響、ベルゲン・フィル、フランス・ブルターニュ管に客演し、それぞれの地で、その深い音楽性と的確な指揮で、多くの観衆を魅了した。国際的指揮者として、現在最も期待されている指揮者である。

小川典子（おがわ　のりこ）ピアノ

川崎市生まれ。桐朋学園付属音楽教室、東京音楽大学付属高校を経て、ジュリアード音楽院に学ぶ。井口愛子、弘中孝、B.キャプランに師事。

1983年日本国際音楽コンクール２位入賞。1987年リーズ国際コンクール３位入賞。ＮＨＫ交響楽団、読売日本交響楽団、東京都響、東京交響楽団、日本フィル、東京フィルなど、日本の主要オーケストラとの定期的な共演をはじめ、フィルハーモニア管、ＢＢＣフィル、エーテボリ響、世界中のオーケストラと、指揮者ではサイモン・ラトル、レナート・スラトキン、ヤン・パスカル・トルトゥリエらと共演している。室内楽では、ウイーン・フィルのコンサートマスター、ライナー・ホーネックや、ベルリン・フィル木管五重奏団との親交が深い。

北欧最大のレーベル、ＢＩＳの専属アーティストとして、話題のＣＤを次々とリリース。武満徹ピアノ曲、展覧会の絵、ラフマニノフ協奏曲、ドビュッシー・ピアノ曲はヨーロッパやアメリカのレコード誌、新聞紙上で絶賛され、名盤としての地位を確立した。現在、サン・サーンス、ラフマニノフ、チェレプニンのピアノ協奏曲全曲、ドビュッシー・ピアノ曲のＣＤ録音を進行中。ベルゲン音楽祭ファイナル演奏会、PIANO2000音楽祭、オーストラリア室内楽音楽祭、ラトビア音楽祭など、世界の音楽祭へ招聘されたほか、今シーズンは、ロンドンでのリサイタルを皮切りに、スイス、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、オーストラリア、アメリカ、シンガポール、マレーシアへ演奏旅行。

今後はBBCスコットランド響、ロイヤル・リバプール響、タピオラ・シンフォニエッタとの共演のほか、ベートーヴェン・ピアノ協奏曲全曲演奏会（アメリカ）に挑む。今年、英国の実力派ピアニスト、キャサリン・ストットとデュオを結成。２年後にストット＆オガワのためのBBC委嘱作品２台ピアノ協奏曲が書かれる予定。こうしてロンドンを拠点に幅広く活動するその姿勢は、世界中の音楽家、音楽ファンから信頼を得、年々活躍の場を広げている。

1999年、文化庁芸術選奨文部大臣新人賞受賞。　オフィシャル・ホームページはwww.norikoogawa.com